

「第2回気仙沼線沿線自治体首長会議」

議事次第

日時：平成27年7月24日（金）16:15～17:15

場所：国土交通省

中央合同庁舎3号館4階幹部会議室

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

- ・気仙沼線復旧についての東日本旅客鉄道株式会社としての
考え方

4. 閉 会

(配付資料)

- ・気仙沼線沿線自治体首長会議 名簿
- ・東日本旅客鉄道株式会社説明資料

気仙沼線沿線自治体首長会議 名簿

西村 明宏	国土交通副大臣（座長）
菅原 茂	気仙沼市長
佐藤 仁	南三陸町長
布施 孝尚	登米市長
三浦 秀一	宮城県副知事
深澤 祐二	東日本旅客鉄道株式会社代表取締役副社長
藤田 耕三	国土交通省鉄道局長
菱田 一	復興庁統括官

（敬称略）

気仙沼線に関する基本的な考え方について

2015年7月24日
J R 東 日 本

○震災前に気仙沼線が果たしてきた役割

- ・ 気仙沼線は沿線地域の基幹交通を担うとともに、仙台方面への速達性の高いアクセスの機能を持っていた。
- ・ その後、一般道路及び高速道路整備の進捗による道路交通の利便性向上及び自動車保有台数の増加等により、柳津・気仙沼間の利用者（平均ご利用人員）はJR発足後（1988年度）の1,425人から震災前（2009年度）では898人まで減少し、高校生等の通学や高齢者のご利用が中心となっていた。
- ・ このため、相対的に気仙沼線の優位性は低下し、鉄道の特性を十分に発揮できる水準とは言い難いことから、持続的に地域交通としての役割を果たせなくなるおそれがある状況となっていた。

○BRTによる仮復旧

- ・ このような中、東日本大震災が発生したが、地域の基幹交通が機能しない状態が長く続くと地域の復興に悪影響を与えることになるため、BRTの仮復旧により交通手段の確保を図ることとし、下記の内容を実現してきた。

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段を提供

沿線自治体からの要望に基づいて新駅を1駅設置してきた。また、復興まちづくりの進捗に応じた運行ルート及び駅位置の変更を実施してきており、志津川地区まちづくりに併せた駅移転を実施予定である。

②津波到来時の安全を確保

東日本大震災と同等の津波が到来した場合でも、BRTが直接避難出来るよう、津波避難マップの整備や避難訓練により、安全を確保してきた。

③多くのお客さまにご利用頂ける高い利便性の提供

速達性：専用道の整備による渋滞回避や、交差点でのBRT優先走行により速達性確保を図ってきた。また、前谷地駅への延伸運転により、対仙台、石巻方面への速達化を図った。

定時性：専用道整備の進捗により、遅れの実績も終着駅において5分未満の便が90%以上を占めるようになり、概ね定時性が確保できている状況である。

利便性：・ パターンダイヤの導入と運行頻度の向上を図ってきた。
・ 鉄道・BRT乗換駅での同一ホーム乗換化や車両ステップに合わせたホームと縁石を設置しバリアフリー化を進めてきた。
・ 駅の待合室・屋根・照明・トイレの整備を図り、赤を基調とした統一的なデザインを導入した。
・ スムーズな乗降を目指し、専用IC乗車券・定期券『Odeca』

を導入するとともに、『Suica』の利用も可能とした。

- ・時刻表への掲載及び鉄道との直通切符の販売等を実施した。
- ・遅れ発生時でも確認可能なロケーションシステムやスマートフォンアプリ『BRT ネット』を導入した。

○今後、更に取り組む内容

④地域交通の活性化への貢献

(地元要望に基づく更なる新駅設置)

- ・BRT 専用道から離れた公共施設等への新駅設置と一般道経由での日中時間帯のダブルルートでの運行
- ・BRT 区間から離れた公共施設等への新駅設置と延長運転の実施

(地域の拠点としての活用)

- ・基幹交通のBRTと、路線・公営・コミュニティバス等の地域交通との結節点として、BRT 駅を地域の拠点として活用

(専用道整備)

- ・河川工事等に合わせた整備による速達性・定時性の向上

⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上

- ・今後延伸が図られる三陸道を活用した高速バスとの連携による仙台方面とのアクセス

⑥産業や観光の振興による地域の活性化

- ・観光PRや旅行商品の造成等を通じた観光の振興
- ・三陸地域の地産品PRとJR東日本グループ全体での地産品の活用と販売や6次産業化への取り組み
- ・BRTを使用した沿線小学校・幼稚園の社会科見学、商工観光事業者への試乗会・報道公開、催事への出展等への取り組み

○まとめ

- ・震災前の気仙沼線は地域の基幹交通としての鉄道特性を十分に発揮できる水準とは言い難い状況となっていた。
- ・BRTによる仮復旧によって、新駅設置、復興の進捗に合わせた運行ルートや駅位置の変更、速達性・定時性・利便性の確保による機能の維持・向上を図ることができ、地域の実情に合致した交通手段となっている。
- ・今後も、これに加えて沿線自治体からの要望に基づく新駅設置や地域の拠点としての駅の活用、交流人口の拡大に向けた利便性向上、産業・観光振興による地域活性化等、地域のニーズに柔軟にお応えすることで、地域交通としての役割を果たしていきたい。
- ・さらに、延伸が図られる三陸道を利用した高速バスとの連携や、フィダー交通と連携した交通ネットワークの確保の観点からも、気仙沼線の担ってきた機能の提供には、引き続き、現在運行しているBRTが最もふさわしいと考えている。
- ・よって、被災地の復興まちづくりが本格化する中、地域が更に発展していくために、復興に貢献する持続可能な交通手段としてBRTを提案する。

震災前に気仙沼線が果たしてきた役割

- ・沿線地域の基幹交通を担い、仙台方面への速達性の高いアクセスの機能を持っていた。



- ・道路交通の利便性向上及び自動車保有台数の増加等による利用者の減少
⇒柳津・気仙沼間の利用者(平均ご利用人員)
1,425人(1988年度)⇒898人(2009年度)
高校生等の通学や高齢者のご利用が中心



- ・相対的に気仙沼線の優位性は低下
- ・鉄道の特性を十分に発揮できる水準とは言い難い
⇒持続的に地域交通としての役割を果たせなくなるおそれがある状況となっていた。

東日本大震災が発生

地域の基幹交通が機能しない状態が長く続くと
地域の復興に悪影響を与えることになるため、
BRTによる仮復旧により交通手段を確保



BRTによる仮復旧により、

- ①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段を提供
- ②津波到来時の安全を確保
- ③多くのお客さまにご利用頂ける高い利便性の提供を実現し、地域の実情に合致した交通手段となっている。

復興に貢献する持続可能な交通手段の提案

BRTの仮復旧により実現してきた内容に加え、更に、

- ④地域交通の活性化への貢献
- ⑤交流人口の拡大に向けた利便性向上
- ⑥産業や観光の振興による地域の活性化

等の地域のニーズに柔軟にお応えすることで、地域交通としての役割を果たしていきたい。

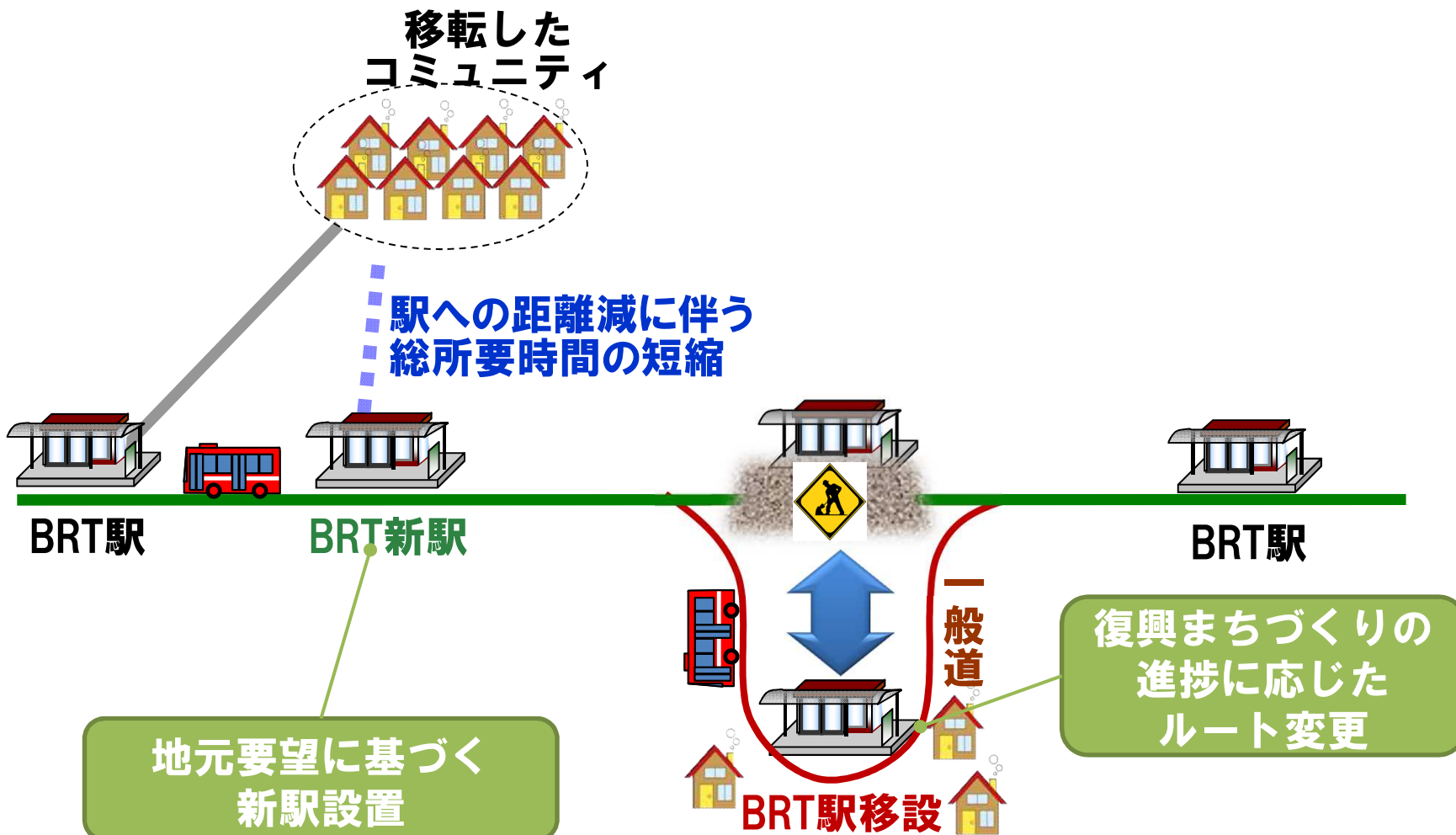


- ・延伸が図られる三陸道を利用した高速バスとの連携
 - ・フィダー交通と連携した交通ネットワークの確保
- には、引き続き、BRTが最もふさわしい交通手段

被災地の復興まちづくりが本格化する中、
地域が更に発展していくために、

復興に貢献する持続可能な交通手段としてBRTを提案

①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供



①復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供



ベイサイド
アリーナ

新・志津川(BRT)

新市街地

現・志津川(BRT)

市街地移転予定
BRT駅移設要望

志津川
(鉄道)

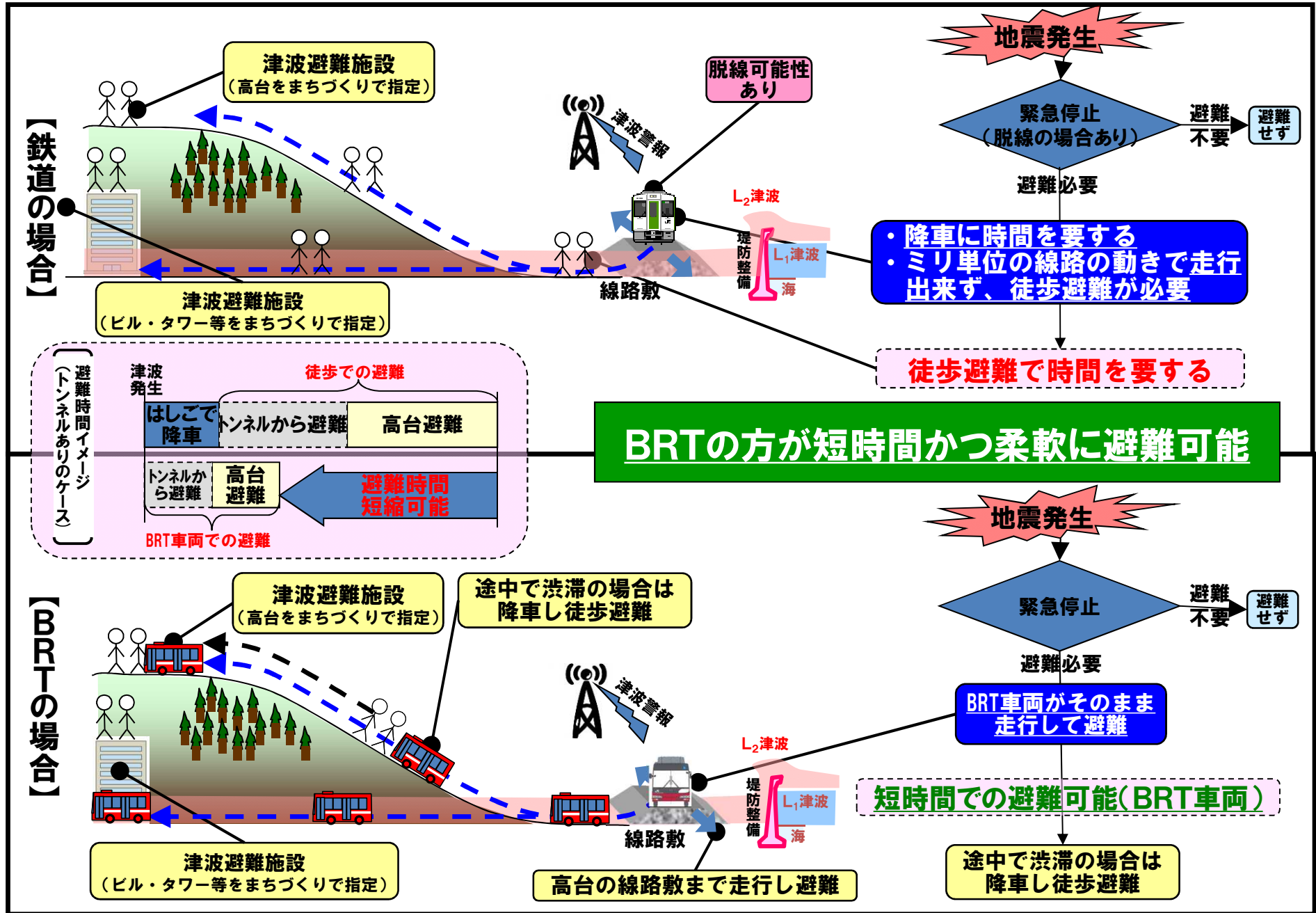
出典:国土地理院

②津波到来時の安全確保

	鉄 道	BRT
震災発生時	●その場で停止	○道路面を目視し、運転できるところは運転可能
運転再開	●係員による安全確認必要 ⇒仮に再開できるとしても相当時間が必要	
津波からの避難	●駅間停車の場合、避難はしごを使い降車後、歩いて避難	○車両で高台等まで直接避難 ○可能なところまで避難した後徒歩で避難 ○乗降口から降車可能であり速やかに避難開始可能

※ ○メリット、●デメリット

②津波到来時の安全確保



②津波到来時の安全確保

津波避難マップ(BRT車両に常備)



津波避難訓練の様子



2012年12月の津波警報発令時にBRT車両が地震発生から10分以内に避難を完了

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

気仙沼線(柳津・気仙沼)			
	鉄道(震災前)	BRT(現在)	BRT(将来)
駅数	18駅	19駅 (うち新駅1)	19駅 +自治体要望に 合わせた新駅設置
日中の 運行頻度 (運行本数)	1時間～5時間程度 の バラつきのある運行 (19本～22本)	30分or1時間の パターン運行 (30本～65本)	30分or1時間の パターン運行 (30本～65本)
所要時間 の変化 (専用道整備率)	90分	106分 (約23km(41%))	90分 (約50km(90%))

○2014年度の気仙沼線BRTの遅れ実績

遅れ時間	5分未満	5分以上 10分未満	10分以上
本数	21,661	1,765	499
構成比率	90.5%	7.4%	2.1%

5分未満の遅れが90%以上⇒定時性は概ね確保

③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

パターンダイヤとフリークエンシー向上 南気仙沼駅下り時刻表の対比

2011.2時点<鉄道>:12本

2015.7現在<BRT>:34本

気仙沼線時刻表
下り 気仙沼方面

4		14	07
5		15	38
6	33	16	
7	20	17	28
8	02	18	
9	10	19	13 51快速
10	48快速	20	
11	59	21	20
12		22	
13		23	

凡例 赤字=休日運休



南気仙沼駅 (市立病院入口) Minami-Kesennuma Sta. 平成27年8月27日改定

気仙沼線時刻表
Timetable of Kesennuma Line
下り 気仙沼方面
for Kesennuma

4		14	26	53
5		15	26	54(53)
6	気仙沼行	16	27(26)	54(53)
7	気仙沼行	17	27(26)	54(53)
8	気仙沼行	18	24(23)	53
9	気仙沼行	19	18	53 土休日運休
10	気仙沼行	20	23	
11	気仙沼行	21	28	
12	気仙沼行	22	23	
13	気仙沼行	23		

凡例 Legend □ = 土休日運休 赤字 = 土休日変更時刻
● = 観光型「旅」BRT車両で運転 * = e-BRT車両で運転(ただし、両車両とも一般車両で運転する場合があります)

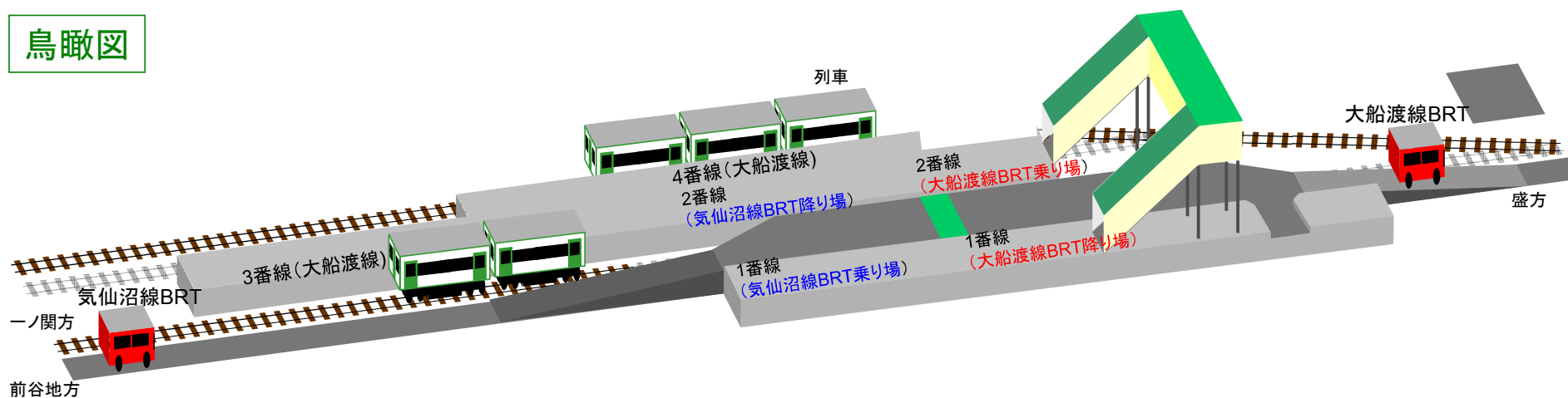
③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

気仙沼駅構内への専用道延伸(大船渡線(鉄道)との同一ホーム乗換え)



- ・気仙沼線BRT
 - ・大船渡線BRT
- とも整備済

鳥瞰図



③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

標準的な駅舎（気仙沼線BRT 不動の沢駅）



③多くのお客さまにご利用頂ける利便性の高い交通手段

odeca
 (オデカ、BRT専用IC乗車券・定期券)



※2015年3月14日より、「Suica」利用が可能に

鉄道と同等の運賃設定
 BRT⇔鉄道のシームレスな切符の販売



ロケーションシステムとBRTネット

時刻表へのBRTダイヤ掲載
 (緑:鉄道 赤:BRT)



駅での案内画面表示例

インターネット

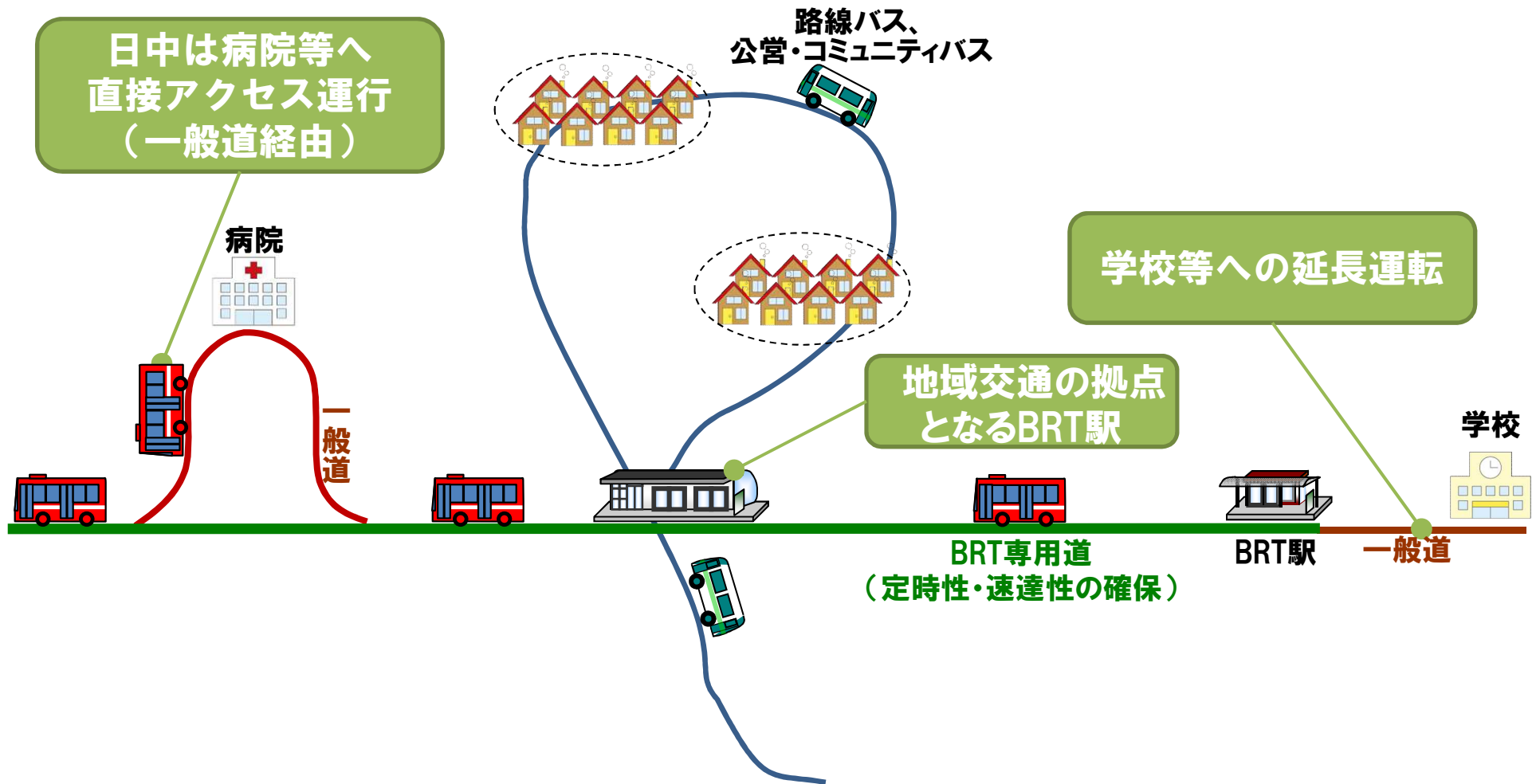
ケータイ スマホでも チェック可能

- ・ニュース
- ・天気予報
- ・生活関連情報
- ・観光情報 など

BRTネットサーバ

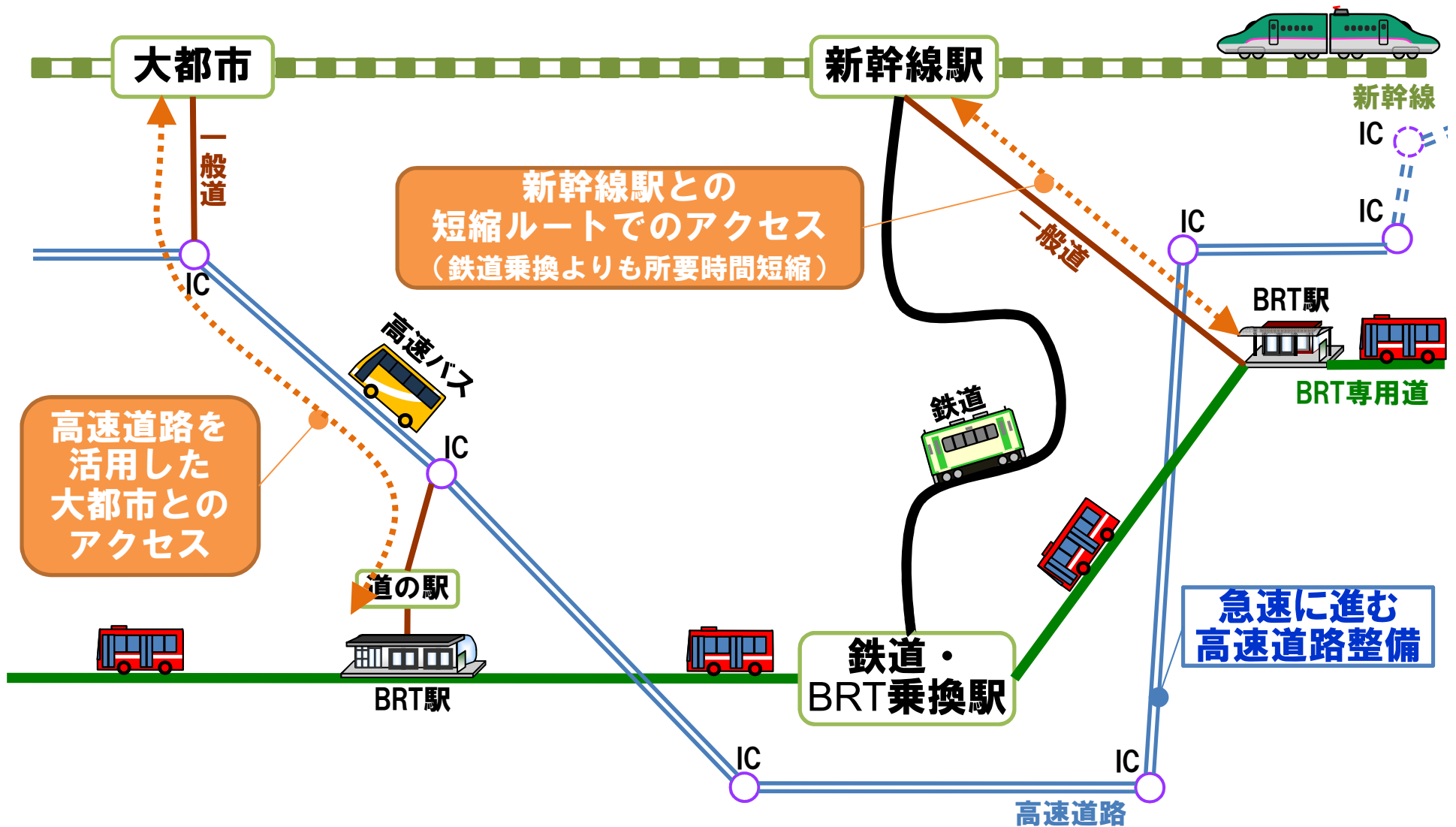
車内モニター

④ 地域交通の活性化への貢献



・基幹交通のBRTと路線・公営・コミュニティバス等の地域交通との結節点として、BRT駅を地域の拠点として活用可能

⑤ 交流人口の拡大に向けた利便性向上



- ・大都市及び新幹線との結節を強化し、交流人口の拡大に貢献
(観光振興にあたってはBRTは利便性が高い)

⑥産業や観光の振興による地域の活性化

【取り組んできた事例】

「三陸のものマルシェ」

(三陸地域の地産品PRと販売、観光PR)

- ・秋葉原駅で2014年度に計5回開催
〈延べお客さま数 約30,000人〉
- ・2015年度 **7月23日～25日(秋葉原駅)**
12月17日～19日、2月25日～27日開催予定
- ・実施内容
 - PRボードの展示、観光パンフレット、BRT関連
スライド放映・パンフレットの配置、旅行パンフ
レット配置
 - ゆるキャラとのふれあい、久慈の高校グループ
「あまくらぶ」イベントショー、「BRTでつながる3
エリアクイズ」ラリー



BRT沿線復興応援キャラクター おっぽくん



南三陸町(オクトパス君)



気仙沼市

地産品の活用

- ・地元自治体・商工会と連携してJR東日本グループ会社の仕入・調理担当者を対象とした現地商談会を開催。(岩泉町商談会)



⑥産業や観光の振興による地域の活性化

【取り組んできた事例】

BRTの社会科見学

沿線の小学校・幼稚園を対象に、BRTの仕組み、
交差点の安全確保や体験乗車を実施



地域が主催する催事への出展



電気・観光型BRTの導入

商工観光事業者を対象とした試乗会・報道公開の実施



ショッピングセンターの会員優待会でのBRT 利用券の配布

気仙沼線BRTのサービスレベルの向上

④ 地域交通の活性化への貢献

- 河川工事等に合わせた専用道整備
[現状約23km (41%) ⇒計画約50km (90%)]

① 復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供

- 復興まちづくりの進捗に応じた運行ルート及び駅位置の変更を実施
- 志津川地区まちづくりに併せた駅移転を実施予定



⑤ 交流人口の拡大に向けた利便性向上

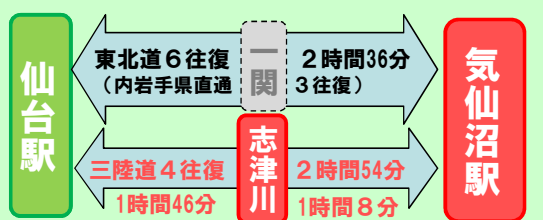
- 三陸道を活用した高速バスとの連携による仙台方面とのアクセス

専用道 (供用中)	専用道上駅 (供用中)	○
(今後計画)	(今後計画)	○
一般道	一般道上駅	○



- ### ① 復興まちづくりの進捗に応じた交通手段の提供
- 自治体要望に合わせた新駅の設置 (駅数: 18駅 ⇒ 19駅)

【仙台直通のバス (現状)】



③ 多くのお客さまにご利用頂ける高い利便性の提供

- 前谷地駅延伸 (対仙台、石巻方面への速達化) (6/27実施)

(参考資料)
JR東日本における
地域振興の取組事例

びゅうばす



びゅうばす「南三陸・気仙沼復興応援号」
津波被害を見聞きて学び、三陸の新鮮で美味しい魚介類を味わう。

■ 出発日 / 4月5日(日)~9月27日(日)の月曜日と5月4日(月・祝)~6日(水)、9月21日(月・祝)~23日(水・祝)

■ 料金(1名様)/おとな **3,910円** こども **3,690円**

■ 食事 / 付いておりません

■ 乗車場所 / 仙台駅(東口)

■ 降車場所 / 一ノ関駅(西口)

仙台駅(東口) 10:00発

南三陸さんさん商店街 (約60分)(自由昼食)

語り部ガイド(南三陸町) (約60分)

BRT(バス・ラピッド・トランジット)専用道 リアス・アーク美術館 (約40分)

語り部ガイド(気仙沼市) (約40分)

※車窓からの見学となります。

気仙沼復興商店街南町紫市場 (約30分)(買い物)

一ノ関駅(西口) 18:20頃着

※料金は1人1回です。1人乗車料額が異なります。



- ・JR東日本と地元が自信を持ってオススメする地域の観光スポットへご案内する観光周遊バス
- ・列車を降りたら駅前からびゅうばすに乗車、各地の見どころがギュッと詰まったコースを気軽に効率よく周遊可能
- ・快適に各地の魅力的な風景、歴史・文化、味覚をご満喫いただけるもの

共同観光キャンペーン

○長野市・金沢市共同観光キャンペーン

【長野市】

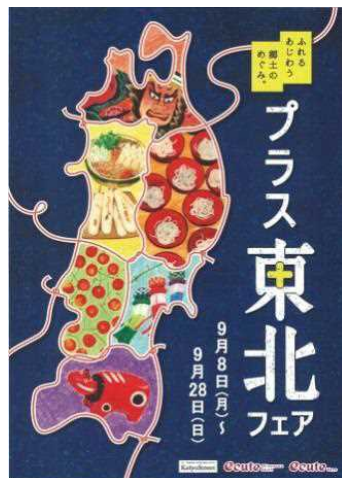


【金沢市】



※写真は全てイメージです。

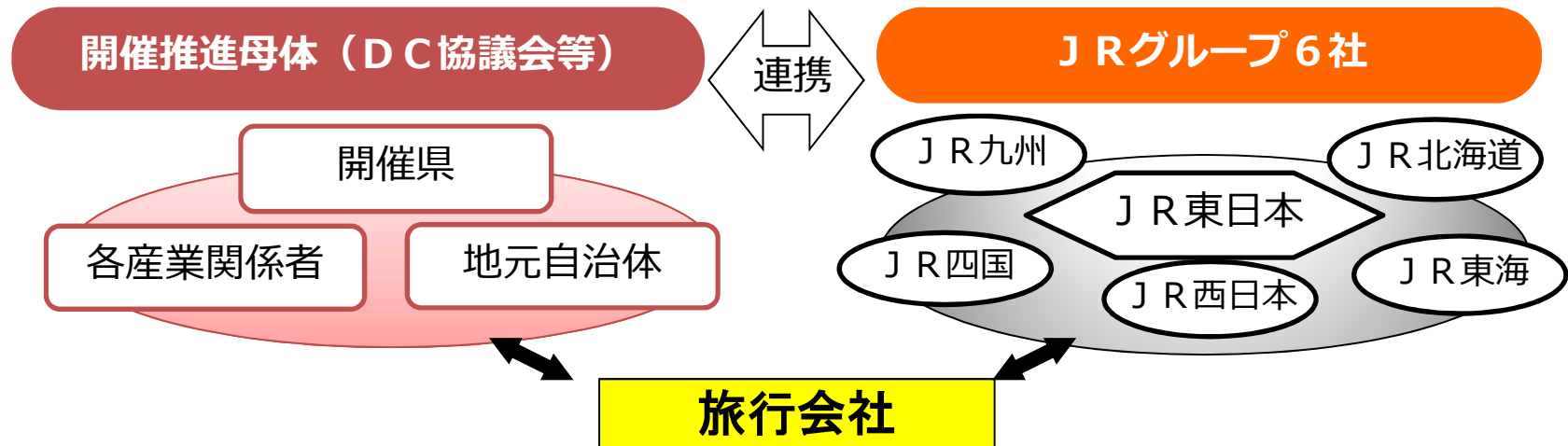
○プラス東北フェア



- ・より多くのお客さまにお越しいただくために、地域とJRが一体となって観光素材を発掘し、受入体制を整備し、さらに磨き上げる。
- ・JRは磨き上げた観光素材を旅行商品に仕立てたり、情報発信や物販などを首都圏を中心とした駅・エキナカなどで実施し、多くの方々に地域の魅力をPR。
- ・地域は着地のメリット(観光客増加・地域経済活性化)、JRは送客のメリット(エリア内に魅力的な観光地を持つことによる鉄道利用促進)をお互いに享受。

デスティネーションキャンペーン(DC)

J R 6社と地方自治体や地元観光関係者が協力し、観光資源の掘り起こしと J R 6社の宣伝媒体を活用した集中宣伝・創客を行う、国内最大規模の観光キャンペーン



観光産業中心・宣伝中心のプロモーションから

地域全体で・おもてなし・「ありのまま」の「みがきあげ」による地域再生へ

デスティネーションキャンペーン(DC)

DCが東北じゅうを駆け巡る



①青森DC

2011年4～7月
震災直後だが、観光による
復興支援を目的に実施。

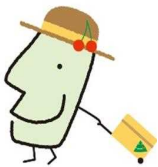


④秋田DC

2013年10～12月

秋田県マスコット スギッチ

山形日和



⑥山形DC

2014年6～9月

⑤新潟DC

2014年4～6月

②岩手DC

2012年4～6月



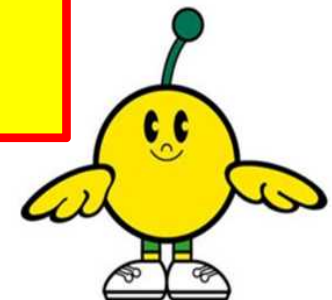
③仙台・宮城DC

2013年4～6月



⑦福島DC

2015年4～6月



ふくしまデスティネーションキャンペーン (2015年4月1日～6月30日)



- ・「花」「食」「温泉」「復興」を柱として、地域の特色である「桜」「歴史・文化」「自然」や地域が準備する「DC特別企画」などの魅力をお楽しみいただけるご旅行を提案
- ・あわせて、磐越西線での「のってたのしい列車『フルーティアふくしま』」の運転や駅からの接続交通の整備など、東北新幹線と常磐線を軸に福島県内を東西に延びる各線区を活用し、広域観光周遊ルートを充実



○フルーティアふくしま

磐越西線 郡山～会津若松間、4月25日(土)から土休日を中心に1日2往復



ホテル フォルクローロ三陸釜石



- ・釜石市の観光振興策と連携し、**三陸地域の観光流動創出と駅前エリアの活性化**を図る
- ・三陸観光の入口として、釜石駅に隣接したホテルを開業（開業：2015年3月29日）
- ・旅に便利な観光情報を発信する他、旅の疲れを癒せる展望露天風呂を設置
- ・ホテル内に、地域の皆さまが気軽に集えるカフェスペースを設置

所在地：岩手県釜石市鈴子町22番4号（釜石駅隣接）

開業日：2015年3月29日

客室数：7階建て113室

活性化・観光開発に向けたモニターツアーの実施



- ・飯山線沿線での活性化・観光開発に向けたモニターツアーの実施
2014.3 「雪原カーニバルと大地の芸術祭の里を歩く
焼き物古民家ひな祭ツアー」
2014.12 「雪国・十日町市で培われた美しき冬の手仕事に出会う旅」



当社媒体を活用した地域の情報発信



トランヴェール

(発行部数**65万部**)

- ・東北・山形・秋田・上越・長野新幹線座席に設置
- ・「感じる旅、考える旅」をコンセプトに東日本エリアの文化・風土を紹介



大人の休日倶楽部会員誌

(配布部数**120万部**)

- ・「大人の休日倶楽部」会員を対象とし、「学ぶ」を「遊ぶ」、「遊ぶ」を「学ぶ」をコンセプトに、ニーズに対応した魅力的な旅情報のほか、新しいライフスタイルを提案

観光需要創出(旅行商品設定、駅からハイキング)

びゅう
2015.4/1~9/30
いわて三陸海岸
感動!旬の味覚と絶景リアス式海岸の旅
いわて復興応援ツアー
7コース設定
往復のJR+宿泊
宿泊プラン
いわて三陸海岸 0555-401
2名様よりお申込みいただけます(料金は別途)

びゅう旅行商品
・各地の観光素材、おもてなしを旅行商品化

JR 東日本
参加費無料で気軽に参加できる日帰りイベント!
2015 1023 期
東日本エリア 100コース
www.jreast.co.jp/hiking/
駅からハイキング & ウォーキングイベント
冬ならではの体験や一足早い春にふれるハイキング。地元ならではのひなまつりもめぐるコースも盛りだくさん!
小田原城 (徒歩約10分)
小田原城天守閣が国の重要文化財に指定された。山田氏の陣所として江戸時代の面影が残され、江戸時代に造られた城郭半島の頂上を占拠した江戸時代の面影が伝わる。内部は小田原の歴史や武家文化に関する資料の展示施設となっています。
訪れることができるコース
【箱根登山鉄道共同開催】早春の小田原から東海道沿いに箱根湯本を巡る
1月31日(土)~3月31日(火) P.18
せんまやひなまつり (徒歩約10分)
伊豆箱根国文化館千鳥園から交通施設には江戸時代(享保)から昭和初期(昭和)の歴史的な人形や心を込めて作られた飾り物や飾り物、千鳥園の各点検にも、それぞれ趣向を凝らした飾り物で街中が華やかな雰囲気に包まれます。
訪れることができるコース
春を呼ぶ「せんまやひなまつり」通り
2月11日(祝・水)~3月3日(火) P.09
雑の祭典 第3回伊東MAGARI雑 (徒歩約10分)
2月25日(水)~3月3日(火)開催
伊東の雑の祭典の中心地「雑の祭典」を期間限定の雑の祭典まつりです。訪れる人形は費用によりお楽しみいただけます。
訪れることができるコース
あつたか伊東、文化・歴史に触れる一日
1月10日(土)~3月22日(日) P.21
上の橋 (徒歩約10分)
上の橋は箱根藩主前田利義が箱根城を築くと同時に中津川に架けた橋。橋を渡る際、橋の柱がこれほど多量に立てられているのは大変珍しい。昭和30年、国の重要美術品に指定されています。
訪れることができるコース
盛岡・福島の春の中で出会う道中「もりの家物産展」と歴史情報あふれる街道めぐり
1月5日(月)~3月29日(日) P.07

駅からハイキング
・駅に集合し、四季折々の絶景ポイントを味わいながら気軽に参加できる日帰りイベント

「のもの」「産直市」



のもの
上野マルシェ
宮城産直

「のもの」

- ・東日本の各地域の食を中心に地域の魅力を発信する地産品ショップ。
- ・銘菓、地酒、加工品といった、「旬のもの」「地のもの」「緑のもの」を紹介。
- ・東日本の玄関口である上野駅、山手線・中央線・総武線等の結節点である秋葉原駅。この2つの駅から地域の魅力を発信

「産直市」

上野駅をはじめとした首都圏の駅で、魅力的な地産品の販売や観光PRを実施
(延べ3477日、うち首都圏支社分2986日)

- ・JR東日本グループは商品発掘、開催環境整備、情報発信
- ・行政はイベント等を通じ、地域の魅力を発信
- ・生産者等が、自ら販売して地域商品の魅力を伝える

「三陸のものマルシェ」(三陸地域の地産品PRと販売、観光PR)

- ・秋葉原駅で2014年度に計5回開催
〈延べお客さま数 約30,000人〉
- ・実施内容
 - 三陸沿岸PRボードの展示
 - 観光パンフレット等の配置
〈延べ配布枚数 約1万8千枚〉
 - BRT関連スライド放映・パンフレットの配置
〈延べ配布枚数 約4千枚〉
 - 東北・三陸沿岸方面への旅行パンフレット配置
 - ゆるキャラとのふれあい
〈延べ出演数 20キャラクター〉
 - 久慈の高校グループ「あまくらぶ」イベントショー
 - 「BRTでつながる3エリアクイズ」ラリー
〈延べ参加者数 約6百人〉



BRT沿線復興応援キャラクター おっぽくん



岩手県(そばっち)



BRTクイズラリー



南三陸町
(オクトパス君)



気仙沼市



大船渡市



陸前高田市
(たかたのゆめちゃん)

地産品の活用

・沿線の地産品を活かした地域振興を図るため、
地元自治体、地元商工会と連携してJR東日本
グループ会社の仕入・調理担当者を対象とした
現地商談会を開催。(岩泉町商談会)

(岩泉の例)

- ・岩泉ヨーグルトをグループ会社で販売
- ・岩泉短角牛を用いた肉まんの開発・販売
- ・岩泉の素材を活かした駅弁の開発 等



のもの1-2-3プロジェクト



- ・各地域の魅力ある農林水産物等の素材を掘り起こし(1次産業)、地域の優れた加工技術等(2次産業)を組み合わせ、お客さま視点を踏まえた商品開発と販売(3次産業)を新たに推進するために、**生産から販売までを一体化した「もの1-2-3」プロジェクトを推進**
- ・「のもの」などエキナカを中心とした店舗等を活用して「マーケティング・消費者ニーズの共有」、「テスト販路の活用」、「食品表示や衛生基準など商品開発に関わる情報の共有」などを行い、消費者が求める商品の開発につながる循環を創出

事例：青豆のあきたこまちクラッカー(秋田)、信州ジビエ鹿肉バーガー(長野)スイーツアトリエ「東京の畑から」(東京)、「會津あかべえの酒」(福島)、女川特産ほや商品(宮城)等



B-1 グランプリ食堂 AKI-OKA CARAVANE



- ・地方創生を目的としてご当地グルメを通じて地域おこしに取り組むイベント「B-1 グランプリ」の都内初の常設公認店
- ・秋葉原- 御徒町駅間の高架下に2015年7月10日開業
- ・観光客で賑わう「秋葉原」で、日本各地の食文化の情報発信基地として、国内外問わず、多くの方に日本の魅力を発信する場を創造
- ・「地方から日本を元気に！」をキーワードに地域活性に取り組む「B-1グランプリ」の理念を応援し、更に鉄道事業と連携することで、実際に現地に足を運んでいただきたいという願いを込めています

十日町すこやかファクトリー



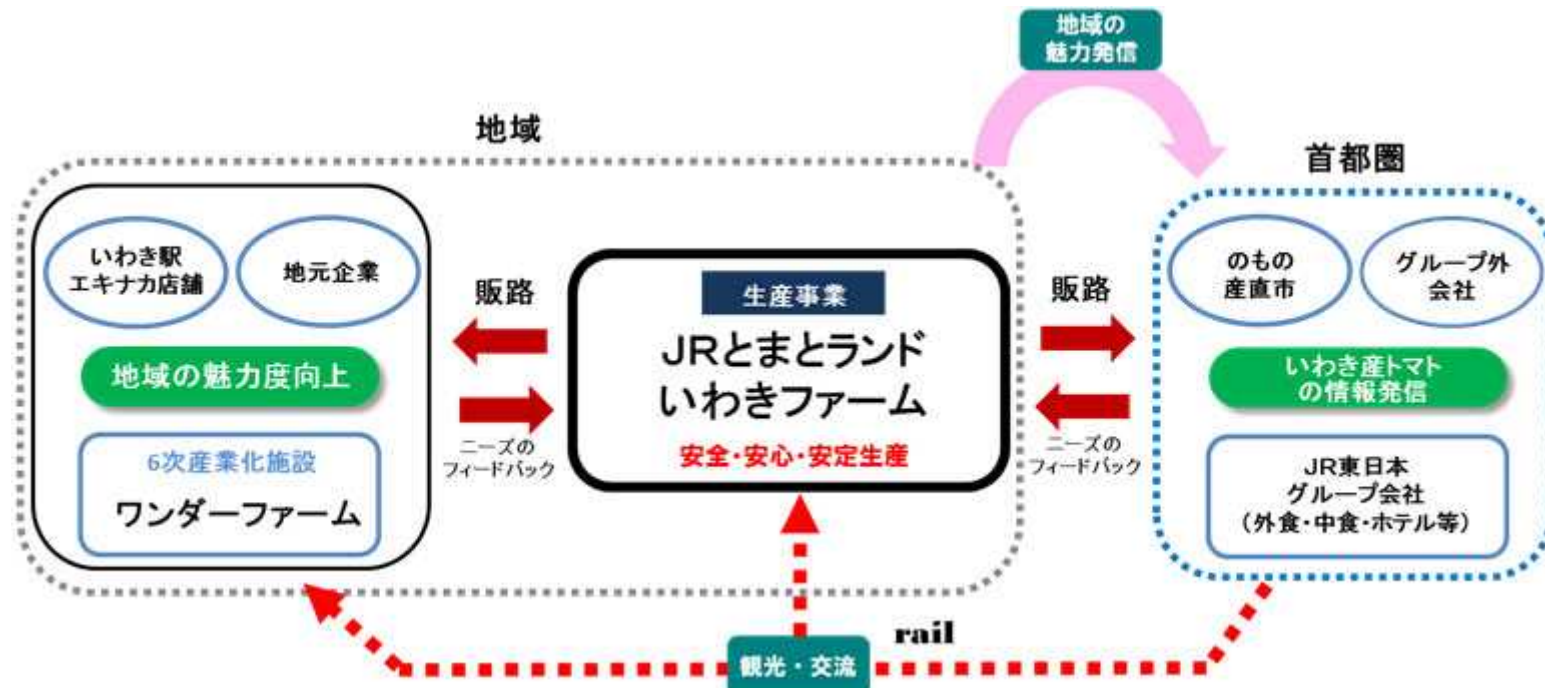
- ・「地域との連携強化」「6次産業化」の具体的な取り組みとして、十日町地域の特産品である魚沼産コシヒカリ(米粉)を用いた食品工場を建設し、**地域経済の発展や雇用促進に貢献**
- ・アレルギー対応菓子を製造(卵・乳・小麦を不使用)
- ・工場名には、お子様たちがこの工場で作るケーキやお菓子を食べて、すこやかに育って欲しいという願いを込めた名称
- ・駅のコンビニ「NEWDAYS」やベックスコーヒーショップ、新幹線車内販売、グランクラス等に供給
- ・2016年春以降デビューの「GENBI SHINKANSEN(現美新幹線)」車内でも提供予定

所在地:新潟県十日町市上新井361番1号(十日町駅より車で約10分)

出荷開始:2014年9月1日

従業員数:26人中21名が地元採用者(2013年9月現在)

JRとまとランドいわきファーム



- ・地産品の販路拡大や地域の6次産業化に向けたものづくりとして、地域の先進農家である(有)とまとランドいわきと提携し、トマトの生産を行う新法人を福島県いわき市に設立。
- ・新法人は太陽光利用型植物工場を建設し、安全・安心・安定生産を行うとともに、地域やグループ会社と連携し、生産から流通、販売まで一貫した取り組みを通じて、**交流人口の創出や地域活性化を図るもの。**



A-FACTORY



- ・**青森市のまちづくり構想にあわせて**、青森駅東口ウォーターフロントエリアに開設。八甲田丸や青森ベイブリッジ、ねぶたの家「わらっせ」等と連携して**青森駅前の賑わいを創出**
- ・青森県産りんごのシードル工房と地元のさまざまな食材が楽しめるマルシェ(市場)の複合施設
- ・マルシェコートでは、青森全域の食材を集め、農家のこだわり野菜や果物のほか、お米や加工品などがズラリと並び、ここにしかない青森の魅力を発見出来る
- ・館内中心部には、醸造行程が目の前で見学できるガラス張りの「魅せるシードル工房」があり、青森りんごの選定作業から醸造作業など職人の手仕事を見ることが出来る
- ・工房内には8個の醸造タンクがあり、各種シードルとアップルソーダを醸造

所在地: 青森県青森市柳川1-4-2(青森駅隣接)

開業日: 2010年12月4日(東北新幹線新青森開業日)

青森りんごジュースの販売



- ・JR東日本ウォータービジネスにて販売
- ・「高品質な美味しい果物を地元企業と共同開発すること」をキーワードに、地域の特産品として青森りんごを使用し、エキナカから「ここにしかない価値」をお客さまにお届けするため青森りんごシリーズを展開。
- ・青森県産りんごの消費拡大や知名度向上に貢献したことが評価され、青森県より「平成26年度青森りんご勲章」を受賞

大船渡フィッシュ&チップスコンテスト

一般部門 **グランプリ** 受賞作品

待望の
商品化!

大五味 (だいがみ)

サケ・ワカメ・ホタテ・カキ・イサダの大船渡の五つの味をフィッシュ&チップスに!

ワカメの揚げ餅風チップス

サケとホタテのヒモのミンチをフワフワさくさくに揚げました

コクのあるホワイトオイスタータルタルソース

受賞者 佐藤 真優子さん 佐藤 和歌子さん

受賞者コメント 今回使った食材は、サケ・ホタテのひも・カキ・イサダ・ワカメの五つ。[大五味]とは大船渡の五つの味を意味しています。いつもは副役の食材たちを一つにして、めざせ、大船渡の名物!

お店で食べる

スーパーマイヤのベーカリー売場にて販売中!

販売期間 4/3(金)~5/3(日) 毎週 金・土・日 限定20食

●レストラン KAIZAN (4/20(月)~) 順次拡大予定

プロ部門 **グランプリ** 受賞作品

待望の
メニュー化!

ふわふわどんこのフィッシュ&チップス

マスタードとピクルスのきいた大人向けソース

ジャガイモ、ピーズ、ゴボウの彩りチップス!

自身のどんこを(エフィアイナメ)とろけるほどふわふわに揚げました

受賞者 斉藤 勝敏さん(キャピタルホテル 1000)

受賞者コメント 気仙地域では揚げ物にして食べることがほとんどないどんこ(エフィアイナメ)を使いふわふわ食感のフライにしました。

アレンジ版を

お店で食べる

盛岡市 ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING「ジョバンニ」 岩手を代表するホテルメトロポリタン盛岡のシェフがおいしく仕上げました。

提供期間 3/25(水)~5/10(日)

価格 朝食buffet ¥1,782 / ランチbuffet 平日 ¥1,800 土日祝 ¥2,000 (いずれも消費税・サービス料込)

- ・大船渡の新鮮な魚を使ったグルメ開発を通じて、大船渡水産物の普及を図る活動
- ・審査委員にJR盛岡支社、メトロポリタン盛岡が参加

共催: 一般社団法人料理ボランティアの会、市、商工会議所、青年会議所等
協力: JR東日本

BRTの地域活性化に向けた取り組み



- ・BRT沿線の小学校・幼稚園を対象に、社会科見学としてBRTの仕組み、交差点の安全確保や体験乗車を実施



BRTの地域活性化に向けた取り組み

サンリア JR
大船渡線BRT
利用券

平成25年6月28日から6月30日まで1回限り有効

大船渡線BRT利用券 **かすり**

盛駅 → 下記乗車駅

平成25年6月28日から6月30日まで1回限り有効

ご利用の際は乗車券と併せてお持ちください。

乗車区間	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券	乗車券
盛	下	下	下	下	下	下	下	下	盛

大船渡線BRT
利用券

- ご利用の際は、乗車券と併せてお持ちください。
- 乗車券は、一部BRT専用車へのみ有効です。乗車の際は、乗車券と併せてお持ちください。
- 本券をご利用の際は、乗車された駅名を丸印で囲んで乗車券と共に運賃箱へお入れください。
- 本券は、表面に記載のある大船渡線BRTの駅で降車する場合のみ有効です。それ以外の区間ではご利用いただけません。
- 本券は平成25年6月28日から6月30日の3日間のみ、1回限り有効です。
- 本券1枚で、大人1名さまがご利用いただけます。
- 本券1枚で、大人1名さまに同伴された小児2名さままでご利用いただけます。



- ・ショッピングセンターの会員優待会でのBRT利用券の配布
- ・電気・観光型BRTの導入と、商工観光事業者を対象とした試乗会・報道公開の実施
- ・地域が主催する催事へ出展

